

ヒヤリハット研修 現場で起こる事故とは？



中込 慶太 先生

現場で起こる事故とは

事故 = 人が動く限り必ず起きる

事故とは

普段とは違った悪い出来事、良くないことが起こること

24時間・365日対応



生活している限り必然

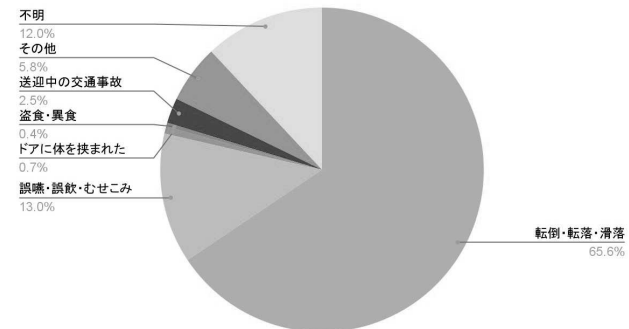
目次

- 介護の現場で起こる事故について

よく起こる事故の分類

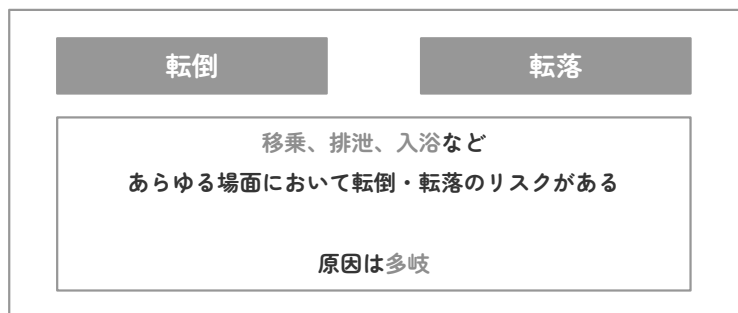
事故 = 人が動く限り必ず起きる

厚生労働省報告276事例 事故状況分類



よく起こる事故の分類

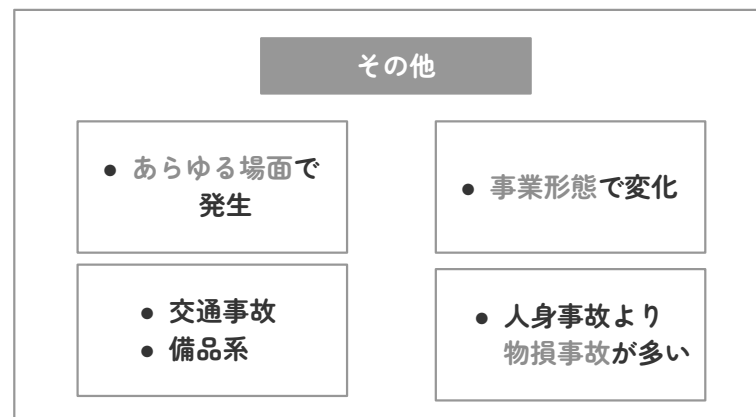
介護現場で一番多い事故とは



職員は常に転倒の危険性を考え行動していくことが求められる

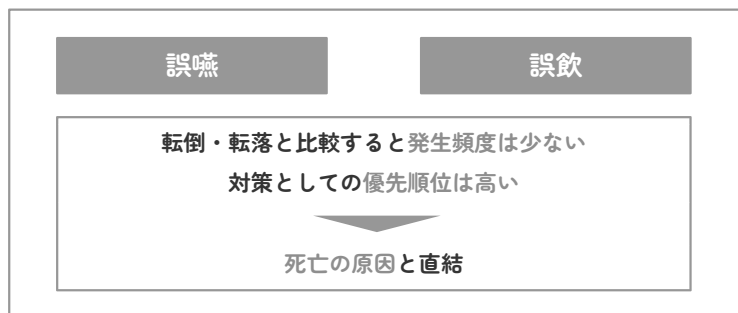
よく起こる事故の分類

介護現場で一番多い事故とは



よく起こる事故の分類

介護現場で一番多い事故とは



食事介助などで事故発生
すぐに対応しないと重大事故に繋がりやすい

まとめ

- 介護の現場でよく起きる事故は、転倒・転落、誤嚥・誤飲が多い
- 日々の業務では、そのような場面に特に気をつけて取り組む必要がある

ヒヤリハット研修

ヒヤリハットとは？



中込 慶太 先生

ヒヤリハット インシデントとは

ヒヤリハットとは

重大事故に危うく繋がるような
ひやっ！、はっ！ というような場面を指す言葉



ヒヤリハットとインシデントは類似用語

違いとは

ひやっ！、はっ！	した	⇒ ヒヤリハット
ひやっ！、はっ！	しない	⇒ インシデント

目次

- ヒヤリハットとはどのような状態をいうのか

アクシデントとは

アクシデントとは

事故に相当する用語



利用者の状態を変えてしまったかどうか
用語の意味を理解するうえで重要

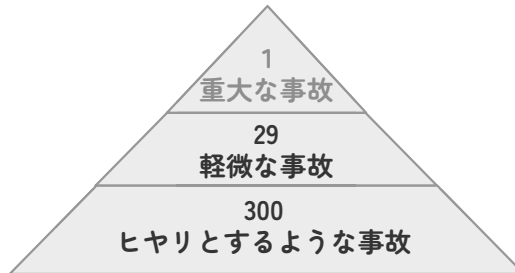
違いとは

ヒヤリハット、インシデント	⇒	変えていない
アクシデント	⇒	変えた

ハインリッヒの法則

ハインリッヒの法則

- 1つの重大事故の背後には29の軽微な事故
- さらに300のヒヤリがあるという考え方
- 突然重大事故が起きるわけではなく軽微な事故・ヒヤリの積み重ね
- その積み重ねで、いつしか起きるという法則



まとめ

- もしアクシデントが起きたら、迅速な対応が大切
- 人が動く限り、必ずヒヤリハット場面に遭遇する
- 自分がひやっ、はっとしたことはチーム内で情報を共有し、改善につなげることが重要

目次

- ヒヤリハットの事例を想定しておくことがなぜ大切なのか

ヒヤリハット研修 ヒヤリハット事例を 想定しておくことの大切さ



中込 慶太 先生

ヒヤリハットを意識する意味

ヒヤリハットとは

重大事故に危うく繋がるような
ひやっ！、はっ！というような場面を指す言葉

現場の職員のイメージ

- ヒヤリハットは良くない？
- 悪いこと？

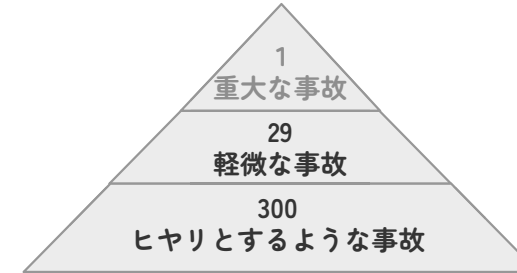


ヒヤリハットの事象を戦略的に活用と分析し
日々のサービスに有効に活用することができる

ヒヤリハットの大切さ

ハインリッヒの法則

- 1つの重大事故の背後には29の軽微な事故
- さらに300のヒヤリがあるという考え方
- 突然重大事故が起きるわけではなく軽微な事故・ヒヤリの積み重ね
- その積み重ねで、いつしか起きるという法則



ヒヤリハットはなぜ起きるのか？

主に3つに分類できる

3分類

- 利用者本人の要因

ヒューマンエラー

- 職員の要因

ヒューマンエラー

- 環境、設備の要因

ヒヤリハットを想定する

ヒヤリとする感覚は個人差があり、主観的要素も強い

主観的事実

報告

客観的要素



報告をしっかりとっていけば、
事象が客観的に分析可能であり
結果的に大きな事故に繋がりにかぬ
ヒヤリハットも想定でき、
未然に防ぐことができる

- ヒヤリハット事例を、自分だけではなく、チーム内で共有してまとめ次のアクシデントにつながらないようにしておくことが重要

- ヒヤリハット事例の報告をすることがなぜ大切なのか

ヒヤリハット研修 報告の重要性



中込 慶太 先生

報告の重要性

ヒヤリハットとは

- 事故の一步手前
- 大きな事故を予防するために、日々報告が大切

- ヒヤリハット報告に関する法規制はない
- 企業・職員は自発的に取り組み、集めた事例から適切な対策を取ることが必要

記録の目的

目的

- 古代ギリシアの医者ヒポクラテス

文献を正しく研究する能力もまた、医術の大切な部分である書かれたものを理解して利用すれば、医療に際して大きな失敗をしないですむと思われるからであると述べているように、記録の目的や重要性が記載されている

ヒヤリハットを考える重要性

ハインリッヒの法則



1件の重大な事故は、300件のヒヤリハットの積み重ねから起こるものと定義

ヒヤリハットの回数を減らす

自然と重大・危険な事故の件数を減らすことに

報告書とは

報告書

- コミュニケーションのため
- 経過や必要な事項に関して要点をまとめるもの
- ヒヤリハットに遭遇した当事者が、その状況や原因、対策などを記載して共有するための文書
- 文書として残すことで口頭での報告よりも共有しやすく、ヒヤリハットの再発及び分析も行いやすくなるメリットがある

まとめ

- 大きな事故の前には、必ず小さな前兆があるもの
- 報告は後回しにせず、すぐにする
- その情報や記録を残して共有することが、改善への第一歩となる

ヒヤリハット研修 報告書の書き方



中込 慶太 先生

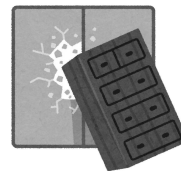
なぜ報告書を書くのか？

報告書の目的

同じ事故を繰り返さないようにするため



起きてしまった事故とどう向き合い、対処するか？



記録

ありのままの真実

報告

目次

- 報告書の目的、書き方について

令和3年度介護報酬改定に関する審議報告

国が定めた事故報告を行う基準

- 1 死亡に至った事故
- 2 医師の診断を受け投薬、処置等何らかの治療が必要となった事故

その他の事故報告については、各自治体の取り扱いによる

報告書の書き方

5W1Hで情報を整理

客観的な事実に基づいた情報

直接的・間接的な原因を考察する

対策・改善策は具体的に提示

時系列に箇条書きで記入をする

専門用語はできるだけ避ける

発生後は速やかに報告書を作成

報告書の書き方 5W1H

5W1Hとは？

- When いつ
- Where どこで
- Who 誰が
- What 何を
- Why なぜ
- How どのように

報告書の書き方 5W1H

5W1Hとは？

- When いつ
- Where どこで
- Who 誰が
- What 何を
- Why なぜ
- How どのように

報告書の書き方 5W1H

• 5W1H

- 10月1日午前0時
- 浴室で
- Aさんが
- 浴室内を歩いていたら転びそうになる
- 浴室内が液体で滑りやすくなっていた
- 歩く前に流水でしっかり洗い流す

5W1Hとは？

- 10月1日午前0時
- 浴室で
- Aさんが
- 浴室内を歩いていたら転びそうになる
- 浴室内が液体で滑りやすくなっていた
- 歩く前に流水でしっかり洗い流す

- 報告書の記入内容は施設の形態などによって異なる
- 報告書には、事実と結果の間の因果関係を記す（5W1H）
- 記録内容は、忘れないうちに、ありのままの事実を客観的に記す

ヒヤリハット研修

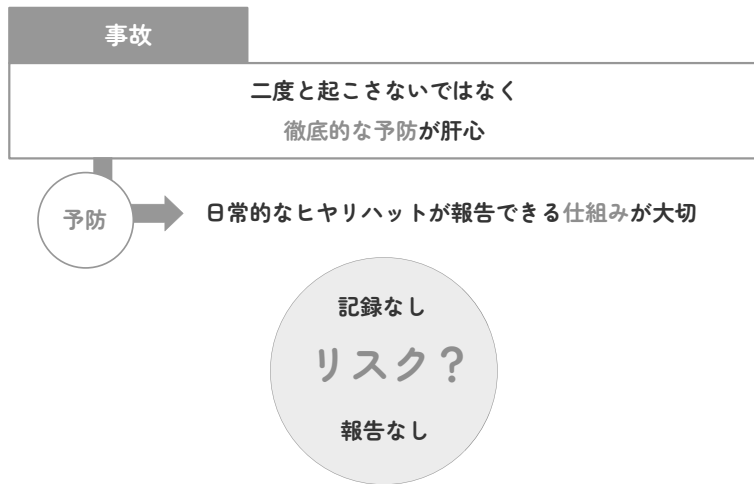
報告や想定をしなかった
ことで起こるリスク



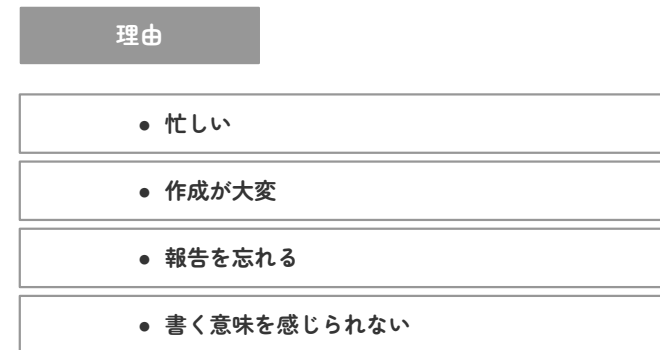
中込 慶太 先生

- 報告や想定をしなかったことで起こるリスクについて

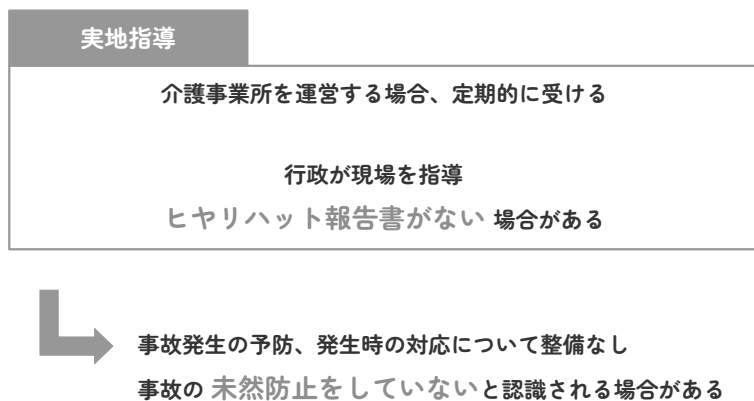
ヒヤリハットの捉え方



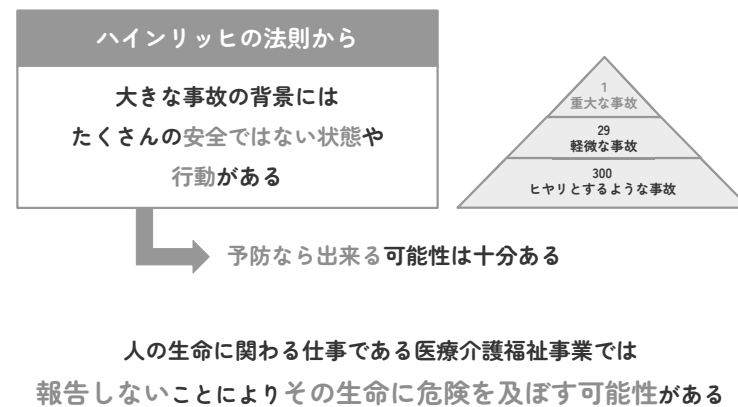
報告が定着化しないのはなぜ？



実地指導における指摘事項



報告しないリスク



まとめ



- 報告や想定をしなかったリスクとは、大きな事故につながる可能性があること
- 私たちは、利用者の生命を守ることを想定して行動をするべき

【 メモ 】

【 メモ 】

【 メモ 】